

(1) 研究主題

主体的に学ぶ子供の育成 ～学びが見える指導の工夫～

(2) 主題設定について

本校では、第6次山形県教育振興計画（後期計画）の「目指す人間像」の一つである、「学びを生かす人」、学習指導要領の、「予測できない変化に主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにする。」をもとに、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」を目指し、国語科を中心に、探究型学習を通じた「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を大切に授業実践・改善を行ってきた。

4年間研究テーマを「主体的に学ぶ子供の育成」とし、昨年度は、①主体的な学びにつながる単元構成と言語活動の工夫、②自分の考えをもち、伝え・高め合う学び合いの工夫、③指導と評価の一体化と振り返りの工夫の3つの視点のもと、単元構成や言語活動を工夫して見直しをもって学習し、お互いに伝え合うことで高め合い、学びを実感できる姿を目指して研究を続けてきた。

しかしながら、研究とともに見えてきた課題もあった。「単元で学んだことをどのように次に生かしていくか」ということである。子供たちが単元で学んだことを自分事として捉え、次の学習や活動に生かしていくには、単元で身に付けたい力を指導者と共有したり、目指す姿を意識して学び合ったり、自分の学びを振り返ったりするなど、主体的に学ぶための手立てを指導者が工夫する必要がある。そういった具体的な手立ては、単元構成や言語活動・考えをもたせる工夫・交流の視点・評価・振り返りの在り方等、多岐に渡り子供の学びを支えるものになる。

そこで、今年度は研究テーマを「主体的に学ぶ子供の育成」、サブテーマを「学びが見える指導の工夫」と設定して、学んだことを自分事として捉え、次の学習や活動に生かしていくことを目指していく。昨年度までの成果を生かしつつ本校の目指す学びについてさらに高めていきたいと考える。

◇主題のとらえ方

「主体的に学ぶ」

- ① 学習課題・問いを把握し、見直しをもつ。
- ② 問題解決しながら、知識技能を習得し、問題解決に必要な能力を身に付ける。
- ③ 振り返りを通して、新たに次の活動の見直しをもつ。

◇サブテーマについて

「学びが見える指導の工夫」

- ① できるようになった自分・わかるようになった自分・高まった自分を自覚するなど、成長した自分を実感できる指導の工夫。
- ② 多様な思いや考えがあることを知ったり、自分の考えを広げたり深めたりして、自分の疑問や問いを解決する中で、次に生かそうとする姿が見える指導の工夫。

(3) 目指す子供像

- 学習の見直しをもち、主体的に考えることができる子供
- 学び合う必然性を実感し、自分の考えを表現することができる子供
- 学習を通して、自分の考えが広がったこと、深まったこと、高まったことを実感できる子供

(4) 研究の視点

視点1 主体的な学びにつながる単元構成と言語活動の工夫

- ① つけたい力の明確化（必須）
 - ・目標、指導と評価の一体化を意識する。
- ② 本校の学習活動に沿ったカリキュラムマネジメント
 - ・本校の特色ある行事や総合的な学習の時間、他教科等と結びつけ、実際に活用できるようにする。

- ③ つけたい力にあった言語活動の工夫
- ④ 児童が主体的に学ぶことができる、ゴールを意識した単元構成の工夫
 - ・学年ごとの系統性や発達段階，児童の実態に応じた単元計画にする。
 - ・自己選択，自己決定できる場面を設けるようにする。

視点2 自分の考えをもち、自ら伝え・高め合う学び合いの工夫

- ① 学び合いの目的の吟味や場面設定の工夫
 - ・何のために交流するのか、どういう姿を目指すのか明確にしておく。(交流の視点を示す)
- ② 自分の考えを持たせる工夫
 - ・教材との出会いを大切にする。
 - ・前時までの振り返りを生かし，導入で課題意識をもたせる。
 - ・書く活動を確保する。
 - ・試行錯誤できる時間を多く設定する。
- ③ 学び合いの工夫
 - ・説明の仕方，質問の仕方，質問に対する答え方など，子供たち同士の学び合いが高まるように，話し合いの型などを示しておく。
 - ・学び合いを通して，自分の考えを見つめ直せるようにする。

◇振り返り

- ① 振り返らせたい場面を設定
- ② 振り返りを見とる内容の焦点化
 - 振り返りを見取る内容として次のようなものに着目していく。
 - ・知識・技能を習得したり活用したりする振り返り
 - ・自分の思いや考えと結びつける振り返り
 - ・考えを形成する振り返り
 - ・友達との学び合いや自分の変容に関する振り返り
 - ・自分の考えが広がったこと，深まったこと，高まったことを実感できる振り返り など
 - 広がり：新しい考えやその根拠を獲得する。
 - 深まり：自分の考えに確信をもったり変容させたりする
 - 高まり：友達と刺激・影響し合ってお互いに考えを向上させる。
 - 単元や1時間の中のどの場面で振り返らせることが子供たちの学習に有効かを吟味する。

(1) 単元を通しての振り返り

- 1次；はじめの振り返り（感想）
- 2次；学習しての振り返り
- 3次；学習を終えての振り返り

(2) 1時間の中での振り返り

- レベル1 今日の学習でわかったこと
- レベル2 次の学習で取り組みたいこと
- レベル3 話し合っって気づいたこと
- レベル4 発見したこと

- ③ 振り返りの見方，生かし方の工夫
 - ・振り返りを教師がどう見ていくか，子供たちがどのように次に生かすかなど，振り返りを活用していく。

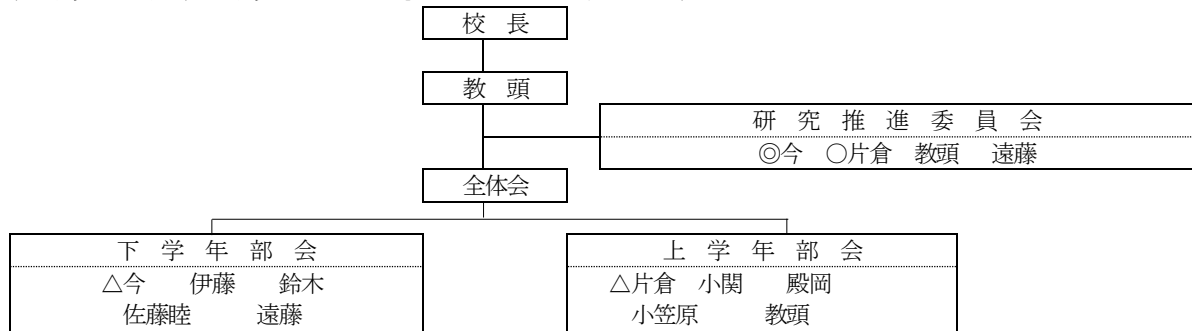
(5) 研究の方法・進め方・日常化について

- ・国語科を中心教科とし，1人1回ずつ研究授業を行う。
- ・教科担当者（理科・音楽など）の授業も，研修を通して行っていく。また，特別支援学級については児童の健康と発達段階を最優先し，研修可能かどうかを見極めたうえで可能な場合に実施する。
- ・個別最適化の指導や，教師一人ひとりの児童を見る目を養うために，特別支援学級の授業を1回目に実施する。
- ・事前研究は全体で行う。その前後に，上・下学年部による検討会も，必要に応じて設定していく。
- ・事後研究は，ワークショップ形式で2グループに分かれて話し合うようにし，成果と課題，改善策について出し合いながら協議し，積み上げを図る。
- ・授業研後，3日以内に提案授業から学んだことをそれぞれが「授業改善宣言」を通して記入し，研

究主任に提出（校務支援ソフトを活用）する。研究主任はそれを周知する。授業改善宣言を日常の授業で年間を通して意識していくことで取組の日常化を促す。

- ・ 学習指導部との連携を図りながら、学年に応じた「話す・聞く、書く、読む」力、「振り返り」の力の定着を図る。また、日々の授業で様々な形態で学び合う場を確保していく。
- ・ 生徒指導部の重点（２）「共感的な人間関係をもとに自尊感情の育成とよりよい生活をつくる自治的能力の育成」の視点に立ち、日常的に相手の考えを共感的に聞き、互いのちがいを認め合いながら進んで関わり合おうとする学級づくりに努める。
- ・ 外部講師を招いて研修を行っていく。
- ・ 市町研修等の授業研究会も校内研修の一環とする。

（６）研究組織（◎研究主任 ○副主任 △部会主任）



（７）年間計画

研究内容	授業者等	ご指導
4月11日（木）研究会推進委員会①		
4月18日（木）学校研究全体会①	研究計画の検討	山形大学 鈴木貴子氏
5月15日（水）事前研究① 5月29日（水）授業研 ①	・わかくさ 佐藤 睦浩 教諭 ・5年 片倉 真美子 教諭	教育事務所 指導主事 市教育委員会 指導主事
6月12日（水）事前研究② 7月 3日（水）授業研 ②	・3年 今 正幸 教諭 ・4年 殿岡 玲央 教諭	山形大学 鈴木貴子氏 市教育委員会 指導主事
7月17日（水）研究会推進委員会②		
11月 6日（水）事前研究③ 11月28日（木）授業研 ③	・1年 伊藤 綾 講師 ・6年 小関 麗翔 教諭	山形大学 鈴木貴子氏 市教育委員会 指導主事
12月23日（月）研究会推進委員会③	今年度の反省	
1月15日（水）学校研究全体会②	今年度の反省・来年度に向けて	
2月12日（水）学校研究全体会③（研究のまとめ）	研究集録帳合い作業 等	